

FEM

Formula team "FEM" magazine

Report

Vol.01
2010
February

FEM-07

シェイクダウン
完了!

Topic! 1.FEM-06の報告

News! 2.FEM-07にかける情熱

Check! 3.今年度FEMの違い

News! 4.シェイクダウンまでの道のり



FEM-06製作 協力に心からの お礼を



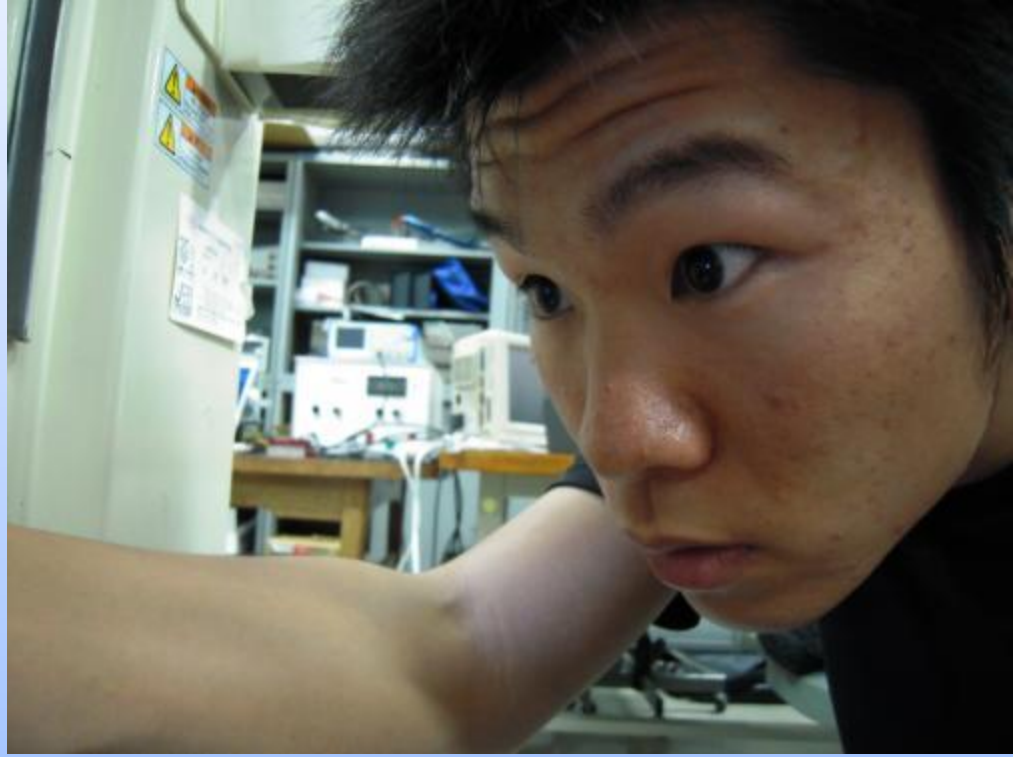
FEM-06製作指揮を
執ったチームリーダー
大野高明

昨年チームリーダーを務めました。昨年目標を入賞と宣言しましたが、結果は総合10位でした。昨年1年間を通して新たに得ることが多く、来年につな



いくと1年間本当にありがとうございました。また、昨年はメールを送り、送りが出来ず、申し訳ございました。

学生フォーミュラ にかける情熱



FEM-07製作の指揮を執る チームリーダー鈴木創介

名古屋大学フォーミュラチームFEM-07チームリーダー鈴木創介です。今年度のチームは10月より発足し、日々マシン作りに勤しんでおります。私は、一メンバーとして今年度チームに確かな手応えを感じております。



それは、今年度まだ4カ月程しかたっておりませんが、「今まで通りでない」活動をメンバーひとりひとりが沢山作り出せているからです。チームとして7年目のシーズンに「今まで通りでない」活動を広く展開し、パワフルなチームに成長できるように頑張っております。



今年度のFEMは

一味も二味も違う

目標は総合優勝

過去の栄光にすぎることなく、今のチームメンバーが、今できる事を着実に実践させます。

“速さ”の徹底追及

『マシンの成熟不足』をFEM最大の問題点として位置づけ、今年度ではこれを解消します。マシン製作のスケジュールを厳守したうえで、各部門に分かれて

マシンコンセプトである『速さの徹底追求』を具体化します。また、テスト走行を繰り返すことなどを通して、マシンを用いたマシン開発を進めていきます。

シンプルない部門体制

制作部門の構成を

『シャシー部門』・

『パワートレイン部

門』の2部門としま

した。これはマシン

制作の自由度を高め

る事で、『速さ』

を追求していく為です。

さらに、定期的に部門会、部門長会を開く事で、部門間で知識と問題点を共有し双方向に意見できる体制を築きました。



3月1日

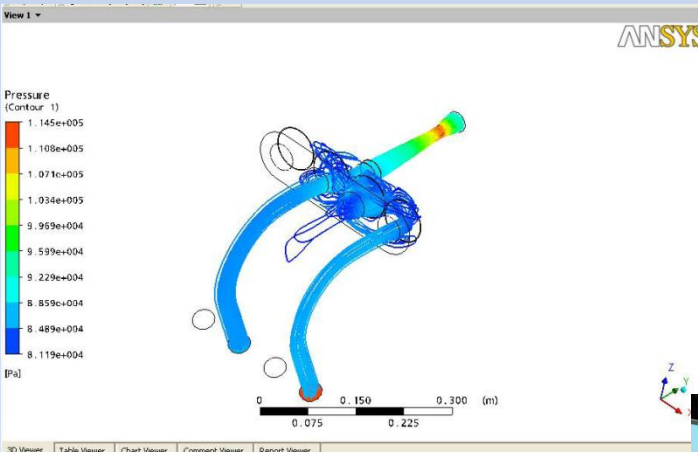
シエイクダウン

シエイクダウン完了！ その秘密に迫る！



本年度の目標通り3月1日にシエイクダウンする事ができました。今年には目標を昨年度の7月12日より大幅に予定を前倒しして活動しました。昨年11月に行われた日産サポート講座には一年生が積極的に参加し、車両製作の基礎を学びました。また、フレームの製作では十分な車両剛性を満たすと同時に空力特性の向上を狙い、ノーズをそり上げた設計・製作を行いました。

本年度の目標通り3月1日にシエイクダウンする事ができました。今年には目標を昨年度の7月12日より大幅に予定を前倒しして活動しました。昨年11月に行われた日産サポート講座には一年生が積極的に参加し、車両製作の基礎を学びました。また、フレームの製作では十分な車両剛性を満たすと同時に空力特性の向上を狙い、ノーズをそり上げた設計・製作を行いました。



↑ ANSYSによるサージタンクの非定常CFD解析



↑ 日産サポート講座会場となった日産本社



↑ FEM-07に搭載したMoTeC

Our Partners

FEMは皆様のご協力により活動しています



発行元

代表：工学部 修士1年 鈴木 創介
編集：経済学部 2年 鯉江 純貴
<http://nagoya.fem.jp/index.html>

名古屋大学FEM 〒464-8603
愛知県名古屋市千種区不老町
名古屋大学工学部7号館A棟